



発行所
長崎県立五島南高等学校
住所
長崎県五島市岐宿町川原3487
☎ (0959) 82-0132

子どもとの

「間」の大切さ

校長 西平 耕治



○空間的な

「間」の大切さ

学級担任をしていた二十代の頃の話ですが、教室で生徒に話し合いをさせる際に、自分がどこにいるのがよいかをよく考えていました。担任は教室の中にあるのが当然だと思われる方が多いでしょうが、そうすると生徒は教師に見られているという意識が強くなり、顔をうかがって自由な発言ができなかったり、すぐに先生に頼ったりして、生徒の主体性が損なわれてしまうことがあります。かといって、職員室に引き上げてしまつて

は、教室内で勝手な振る舞いやもめごとが発生する危険性があります。私なりに試行錯誤を繰り返して、最終的に落ち着いたのが「廊下で見守る」として。ただし、一人で廊下にいるのも間が持たないので、生徒と面談しながら教室内をうかがい、学級委員などが助けを求めたときは助言するといった方法を取っていました。教室内にいると担任としてどうしても口出ししたくなります。「もっとこうしたら、あ

（家庭内も含む）では「間」の取り方が重要であると強く認識しました。

○「間」接的な

指導の工夫

私が初任校として勤めた中学校では、生徒指導上の問題行動が多く発生していました。その度に生徒を捕まえて説教をしていたのですが、そのうちほとんど効果がありませんでした。心理学者の河合隼雄先生の言葉に「100%正しい忠告は役に立たない」というのがあります。例えば、監督が打者に「ヒットを打て」と忠告すればそれは100%正しいことですが、まず役にたちませ

親として、実はこのような忠告（指導）を繰り返しているかもしれないと自省する必要があります。「直球は振り遅れるのでカーブをねえ」といった忠告（指導）は、外れることもありませんが、悩

みを共有し、解決策をとるに考えた上での発言であり、子どもにも次第に伝わっていくものだと思います。

高校生ぐらいの歳になると、教師や親の言いそうなことはすでに分かっているものですが。「勉強しなさい」「掃除しなさい」「ゲームやめなさい」。「親としての私の経験上、「勉強しなさい」といつて子どもが勉強したためしはありません。「勉強しなさい」といつた声掛けが勉強する意欲を損なっていることに早く気付くべきです。じゃあどういう声掛けが効果的か？私の実践例としては、本人が自分から勉強するまでじつと待ち、適当なタイミングで「勉強しすぎてるんじゃない？」といった声掛けをしていました。だまされたと思

かなければ意味がないのです。先人たちは大切なことを物語や絵本にして、子どもの心に届ける工夫をしてきました。高校生は学校行事や部活動を通して、仲間や思いやり、協力することの大切さを学んでいきます。頭で理解させるだけでなく心に響かせるためには、体験を通して「気付かせる」ことが必要です。「教える」のではなく「気付かせる」。そのためにも大人は、もっと知恵を絞らなくてはなりません。

現在の教育界の風潮として、直接的な指導による「即効性」を求め過ぎているように感じます。「いじめをしてはいけません」それで指導が完了するわけがありません。頭で理解できても心に響

き、



長崎県 PTA定期総会に

参加して

PTA会長

馬場 仁志

令和五年六月一日（木）、出島メッセ長崎において開催された、令和五年度長崎県公立高等学校PTA定期総会に出席してきました。まず、総会では、県立高等学校の普通教室の空調設置が100%となったとの報告を受けました。

結果より 一生懸命さ

PTA会長

馬場 仁志

六月二日（金）、総会開会式直前まで降り注いでいた雨もあがり、雲の切れ間から日が差す中、『高鳴れ鼓動 集え努力の結晶』をスローガンに掲げた第七十五回長崎県高校総合体育大会の総会開会式が諫早市のトランスコスモスタジアム長崎で開催されました。本年も昨年に引き続き観覧させていただきました。

次に、教育懇談会（ファミリープログラム）では、各学校の校長とPTA会長が一緒に、学校行事やPTA活動の取り組みやそれぞれが抱える様々な問題・課題などについてグループワークを行いました。他校の取り組みや問題・課題などを生で聞くことができ、今後のPTA活動のヒントを得ることができました。

その後の交流会では、当時の数学の先生と25年ぶりの再会を果たし昔話に花が咲きました。学びある充実の一日を過ごすことができました。

六月三日（土）は、午前中に男子バドミントン部団体競技の応援へ行きました。一回戦は九州文化高校相手に三〇〇でみごと勝利されました。汗だくになりながらも素晴らしい判断と俊敏な動きで、一ラリー、一プレーごと

に手に汗握る熱戦でした。



最後までシャトルを追いかける諦めない姿がとても印象的でした。

午後からは、女子バレーボール部の応援へ行きました。一回戦の相手は上五島高校。アタックが決まったときは、まるで優勝したかのように全員で喜び合う姿がとても印象的でした。

高総体競技視察を通して、シャトルやボールに向かうその一生懸命な姿は結果に関係なく、「人は一生懸命な人を応援したくなる」ということを改めて実感することができました。

出場された選手の皆さん大変おつかれさまでした。

陸上部 川原琉人君

インターハイ出場

八月二日〜六日まで北海道で行われたインターハイに、三年生の川原琉人君が出場しました。結果は、一五〇〇mは予選三組七位、五〇〇mでは、見事決勝に進出し、外国人留学生を相手に一周目を独走するなど、果敢な走りを見せてくれました。皆様のご支援、ご声援ありがとうございました。



体育祭コメント

PTA副会長 谷川 由香理

ここ数年、体育祭の時期になると台風が悩まされる事が多く、今年も直撃するのではと心配しましたが、高校生最後の体育祭をグラウンドで行えたこと、また負傷者を出さず無事に終えることができた本当に良かったと思います。数年ぶりにPTA種目で綱引きや玉入れが復活して沢山の保護者の方々に参加して頂きました。子供たちの対決に負ける訳には

足も忘れ、一生懸命になりました。綱引きでは、やはり若い力には敵わず負けてしまいました。玉入れで勝つことができて、同じチームの保護者で大喜びし、大人も全力で楽しむことができて、いい体育祭だったと思います。体育祭を終え、三年生は進学や就職試験に向けて大変な時期に入ります。自分の夢に向かって頑張ってください。

PTA副会長 本岡 智香子

今年の体育祭は、昨年同様雨続きの中、当日は晴れ、ぬかるみが残るグラウンドでしたが、無事に開催することができました。観客制限もなく、PTA種目も復活し、子供達との対戦がすごく楽しかったです。何より印象的だったのは三年生のダンス!!全員が笑顔であふれ、かわいく踊る姿は最高でした。三年生のイメージにピッタリの演出だったと思います。

最後に私事ですが、「万歳三唱」緊張のあまり万歳をするのを忘れてしまい、壇上からのかけ声だけとなり申し訳ございませんでした。これも一つの「思い出」としていただけると幸いです。

PTA監事 中浦 律子

九月三日に体育祭が開催されました。連日の雨で当日の天候も心配されましたが見事に回復し無事にグラウンドでの実

施が出来ました。三年生にとつて最後の体育祭となりました。印象に残ったのは、一・二年生のソーランと三年生のダンスでした。ソーランは元気で息の合った踊りでした。三年生のダンスは、それぞれのチームがなつかしい音楽に合わせて上手にかっこ良く、とても感動しました。そんな三年生の姿は、一・二年生のお手本となったと思います。今年はPTAの参加もありました。綱引きでは生徒代表に負けてしまいました。玉入れでは見事勝利する事が出来ました。参加して頂いたPTAの皆さんにとつても良い思い出になったと思います。

最後のリレーでは一生懸命に走る姿に生徒も客席も一体となって、応援も一番の盛り上がりを見せました。

これまでご指導下さった先生方に感謝いたします。本当に楽しい体育祭をありがとうございました。



ある日私は、とある記事に目が留まりました。それは、PTAが就職・進学希望者向けに「模擬面接」を行っているという内容でした。私も昨年PTA会長として、教育活動の中で生徒らのために、「何かできることはないか」と自問自答していました。そこで、第1回役員会の時に、「PTAによる模擬面接」を実施したいと提案したところ、校長先生及び進路指導の松田先生が快諾してくださいました。

三年生の面接練習に参加して

PTA会長 馬場 仁志

今回を契機に将来的には、実際に企業で活躍している保護者の皆様と、先生方がともに手を携えて三年生の就職・進学模擬面接に取り組んでもらいたい、「こんな生徒を採用したい」と思えるようなより実践的なアドバイスをいただくことで、生徒らの後押しをしていただくと考えております。



そうして、八月十八日（金）の午前中に三年生の就職・進学希望者向けの「面接練習」に立ち合せていただきました。日頃顔を合わせている先生方だけではなく、『知らない人』である私が面接官の一人として目の前にいることで、生徒らは緊張を持って模擬面接に臨むことができたようでした。立ち居振る舞いや質問への受け答え方やその内容にわたって、社会人の立場からアドバイスを送らせていただきました。